

# 人文研紀要

第95号～第97号(2020年)

## ◆第95号—2020年(2020年9月発行 A5版417頁)

16世紀における寛容の問題 ——「26名の殉教事件」の欧州への伝播を中心に——	相田 淑子
ギ・ド・ブルエスによる真実の基準 ——『新アカデミー会員に反駁する対話』(1557)における法律と数学の関連性——	小池 美穂
ハワイ日系アメリカ人のアイデンティティ ——ライフヒストリー聞き取り調査から——	村上 和賀子
魯迅の文体と写真的感性(3) ——文脈論初探——	山本 明
ニュルンベルク裁判と同時通訳	吉村 謙輔
20世紀を生きたフランス国籍ユダヤ系ドイツ人映画批評家 ロッセ・H・アイスナーの生涯	飯塚 公夫
ウィーンの救済者たち ——ユダヤ人を救った人々(13)——	平山 令二
ユネスコ「岳麓宣言」と「方言」に関する一考察 ——中華人民共和国の事例を手掛かりとして——	小田 格
間接受身文の語用論的研究 ——日本語文脈構築の特殊性から——	施 葉 飛
中国のコンテキストにおける「ユートピア」	朱 力
中古早期の新兼語式について	高柳 浩平
伝統文化における「雪月花」の美 ——詩・歌と絵画から考える——	彭 浩
唯美派の詩人邵洵美の詩について	渡辺 新一
神秘主義と野生の思考 ——井筒俊彦とレヴィ=ストロース——	小嶋 洋介

◆第96号—2020年(2020年9月発行 A5版403頁)

12世紀のシトー会シルヴァネス修道院の歴史叙述における起源の記憶	北館 佳史
『歴代名画記』にみる魏晋以前の画家と作品	嶋田 さな絵
カズオ・イングロ『わたしたちが孤児だったころ』 ——語りの歪みの考察(ロンドン時代)——	安藤 和弘
日本語非母語話者教師をめぐる議論の再検討の試み	中川 康弘
秘められた声, 受け継がれる人生 ——ジャン・グレミヨン『ある女の愛』における映画の活喩法——	新田 孝行
ウィリアム・ワーズワースの先見性と科学	井上 美沙子
意味を通じさせること ——本文編纂者のシェイクスピア——	金子 雄司
徳島県矢野遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定研究 ——縄紋時代後期前半を中心に——	小林 謙一
<i>Hildina</i> 試論 ——シェットランド諸島で採録されたノーン語バラッド——	林 邦彦
反転する歴史認識 —— <i>Tender Is the Night</i> (1934, 1985)における狂気のアダプテーション——	和氣 一成
『不思議の国のアリス』における言語と生物の変身	川崎 明子
『火山の下』の時代背景	野呂 正
『ダニエル・デロンダ』 ——ジョージ・エリオットの最後の小説——	深澤 俊
余分な存在として漂う ——A・S・バイアット『ナイチンゲール目瓶の中の魔神: 五つの御伽話』を読む——	船水 直子
地域介護支援者による高齢期の発達障害に関する認識	緑川 晶
視点, アイロニー, コンテクスト, 歴史, そしてジャクソン ——メルヴィルの『レッドバーン』を再読する——	福士 久夫

◆第97号—2020年(2020年9月発行 A5版286頁)

Runaways from Tarzan Country: Redefinition of American Manhood in Tim O'Brien's <i>Going after Cacciato</i>	Hiroaki NAITO
A Literary Function of Grissell's Death in <i>The Awntyrs off Arthure</i>	Yasuyuki KAITSUKA
The Emergence of Depression and Awareness of Illness after the Removal of an Acoustic Neuroma	Chihiro ITOI Akira MIDORIKAWA
制憲国民大会予備会議	齋藤 道彦
『日本書紀』神代巻の一書と神祇観念	尾留川 方孝
カズオ・イシグロ『日の名残り』(一) ——ヘリテージ文化の影のもとで——	丹治 愛
小河の会戦と安順侯脱火赤 ——「成祖四駿図」によせて——	川越 泰博
明代巡関御史の創始について	荷見 守義
丹波国山国・黒田地域における鮎漁の展開 ——一七世紀を中心として——	西川 広平
ハイデガーとリアリティー問題(その二) ——カントとハイデガー——	須田 朗